

「AMG協議会ニュースは、AMG協議会各部署からAMG全職員への情報発信を目的としています」

2024
No.071
1月号AMG News!
AMG協議会ニュース

January

上尾中央医科グループ
AGEO MEDICAL GROUP編集・発行人 AMG協議会総務部 広報室 <http://www.amg.or.jp>
〒362-0075 埼玉県上尾市柏座1-10-3-58 TEL:048-773-1113 FAX:048-773-7116
監修/(株)寿エンタープライズ 制作/(株)博愛社

総務部

～2024年度 AMG方針 発表～

2024年1月10日(水)、中村康彦会長より「令和6年度AMG方針 統一テーマと詳細説明発表会」と題しまして理事・運営委員に向けてのAMG年度方針発表会が行われました。

本会はリアルタイムかつ多くの理事・運営委員に聴講の機会を設ける為、Zoom会議にて開催されました。

はじめに、2024年度AMG統一テーマ「先導」を発表いただきました。

続いて、3つの大項目について詳細な説明をされ、最後に来る2024年度に向けて全理事・運営委員の意思統一と激励のお言葉を頂戴し閉会となりました。

2024年4月14日(日)に行われるAMGキックオフ大会では、改めて全職員に向けたAMG方針説明発表会を行います。

皆様にはぜひ積極的にご参加いただき、ともに新しい年度のスタートを切りましょう！

2024年度 統一テーマ

先導

Let us become a pioneer!
時代を切り拓くパイオニアになろう！

- ・超高齢化社会となる現代において、これまで以上に在宅や介護との連携により地域を包括的に支えていくことがとても重要。
- ・しかしながら、労働人口の減少により医療人材の確保や育成には課題もあり、医療のデジタル化や労働環境の改善とともに効率的で持続可能な医療体制の構築が必要。
- ・この様な時代に自ら率先して医療・介護の在り方を示し、地域の先頭に立っていけるようになることを目指していくためにも、今年度のAMG統一テーマを「先導」としました。
- ・先頭に立つことは厳しいことが多いですが、そこでしか磨けない未来が存在します。これからの未来を共に創り上げていきましょう。

Zoom会議にてAMG統一テーマを発表される中村康彦会長

2024年度 統一テーマ

※説明会の内容を一部抜粋

先導

Let us become a pioneer!

時代を切り拓くパイオニアになろう！

1. 地域ニーズに沿った地域連携と医療・介護サービスの最適化

- ・紹介患者および利用者の受け入れ体制の強化と連携の向上
- ・サービス提供の最適化に向けた機会損失分析の徹底
- ・地域公的機関(市役所、医師会、消防など)、地域住民との連携 ・在宅サービスの拡充

2. 効率的な運営と持続可能な健全経営

- ・三役及びリーダー職における確実な予算・目標達成
- ・報酬体系改定への迅速な対応と報酬体系を活用した質の高いケアの実現
- ・データドリブン運営:データに裏付けされた意思決定 ・予防事業の強化と二次健診受診率の向上
- ・効率的な業務配分とデジタル化の推進 ・療養環境の持続的ケアと意識の定着の取り組み(ファシリティマネジメント)

3. 組織成長を支える人財マネジメント(全職種)

- ・職員意識調査の活用による働きがいの促進 ・キャリア開発と育成のサポート ・適正人員確保に向けた努力と工夫
- ・就職の動機となる学生実習の充実 ・長時間労働の是正による環境改善 ・職員定着率の向上と離職防止策の実施
- ・ハラスメント対策の強化

第64回 全日本病院学会 in広島

人財開発室

発表報告

全日病学会でのAMG職員の活躍の様子をご紹介します！

2023年10月14日～15日に第64回全日本病院学会が広島県で開催されました。

全日病学会は、日本全国の約2,500の病院が加入する、公益財団法人「全日本病院協会」が、年に1回開催する学術研修の場です。今回、AMGからは27施設が参加し、80題の学術発表をしました。(前回、27施設、60題)

AMGでは、学会・研究発表や勉強会講師、論文などの執筆活動の経験を通してスキルの向上を図ることを推奨しています。



▲会場 広島コンベンションホール



▲会場 広島県医師会館



▲会場 ホテルグランヴィア広島

部門別 演題発表数 (題)

看護	15
薬剤	5
放射線	11
臨床工学	7
検査	5
リハビリ	5
栄養	11
事務・SW	21

2023年度のAMG方針に、「4. 人財育成」において、「プレゼンテーションスキルの向上による人財育成と組織的関与」という内容があります。

『プレゼンテーション』は、限られた時間の中で、聴く人に伝えたいことを確実に伝え、相手の行動や思考に影響を与えるなど、非常に重要な手法となります。

また、学会発表に取り組む過程で、一度自身の取り組みを見直すよい機会にもなります。それにより、新たな取り組み、方向性を考えることもあるかもしれません。

学会発表を通して、自身の情報発信をすると共に、新たな情報を収集し、そこで得た経験をその後の業務に活かしていくことを願います。



2023年10月14日(土)

171名が参加する「全日本病院学会in広島」AMG懇親会が開催されました。円卓を囲みながら皆さん楽しくご歓談されていました。



津田沼中央総合病院の皆様



閉会のご挨拶(八潮中央総合病院 本間院長)



AMG協議会総務部司会進行係



【第65回全日本病院学会】

2024年9月28日～29日に
京都府で開催されます。

発表演題の紹介

□演発表41題

施設名	所属	役職	発表者氏名	演題名
上尾中央総合病院	放射線	副科長	佐々木 健	交流分析を用いたメンター制度の評価
上尾中央総合病院	巡回健診	主任	藤井 翼	巡回健診協会けんぽ加入者の胃部X線検査実施率向上への取り組み
上尾中央総合病院	地域連携	主任	室田 雄輝	前方支援強化における地域連携構築について ～スムーズな受け入れの実現に向けて～
上尾中央総合病院	外来医事	課長	佐藤 洋介	面会web予約制導入の取組みと効果
八潮中央総合病院	臨床工学	一般	青山 美玖	多職種連携による透析中リハビリテーションの6ヶ月評価
八潮中央総合病院	検査	係長	間中 樹里	当院における緊急報告値の改定と報告体制の構築
八潮中央総合病院	薬剤	一般	小野 真梨子	骨折リエゾンチーム活動開始に伴う薬物療法の変化
八潮中央総合病院	看護	一般	小林 香代子	COVID-19患者のADL低下予防・維持に向けた事例検討
八潮中央総合病院	医事課	係長	高島 淳夫	『二次性骨折予防治療管理料算定への取り組み ～骨折リエゾンサービスチーム発足～』
吉川中央総合病院	放射線	一般	佐藤 拓海	Dual Energy CTを利用した造影剤量低減への試み
吉川中央総合病院	患者・家族支援	係長	丹野 雅俊	紹介状に対する返書作成の取り組み
白岡中央総合病院	栄養	科長	松崎 美貴	管理栄養士のためのキャリアパス作成の取り組み ～管理栄養士の意向調査の実施報告～
白岡中央総合病院	医療安全管理	課長	渡邊 幸子	院内研修の仕組み構築と管理体制整備実現に向けた取組み
津田沼中央総合病院	放射線	一般	植村 美羽	当院のマンモグラフィ読影における医師読影と診療放射線技師読影の カテゴリー一致率の検討
津田沼中央総合病院	医療福祉総合相談	一般	野田 真裕美	地域連携会議の取り組みについての実践報告 ～病院から老健へ看取り目的で入所した事例共有を通して～
津田沼中央総合病院	総務課	係長	亀屋 春樹	「病院20年後を見据えた施設維持管理中長期計画」
津田沼中央総合病院	看護	係長	高橋 理恵	変化する時代に対応した新人看護師研修の取り組み ～Z世代の特徴を踏まえた研修の実践～
津田沼中央総合病院	診療情報管理	一般	野口 菜央	“カルテ開示業務改善”のためのホームページ充実化計画
さがみリハビリテーション病院	リハビリ	係長	佐藤 隼	セルフマネジメントに焦点をあてた介護予防事業の取り組み ーリハ専門職による面談プログラムの効果ー
さがみリハビリテーション病院	栄養	係長	田村 亜希子	回復期リハビリテーション病院における攻めの栄養療法の効果について
船橋総合病院	栄養	主任	笹本 果穂	食を通じた栄養管理～管理栄養士が病棟にいる意味とは～
船橋総合病院	栄養	一般	山田 菜生	管理栄養士病棟専従配置による変化について
船橋総合病院	放射線	一般	本澤 大輔	バーチャルグリッドを用いた股関節軸位撮影の撮影条件の検討
彩の国東大宮メディカルセンター	臨床工学	主任	上村 祐太	上尾中央医科グループ 血管造影室ワーキンググループでの活動報告
彩の国東大宮メディカルセンター	入退院支援	主任	西崎 加代子	PFM(総合患者支援センター)の取り組みと今後の課題
彩の国東大宮メディカルセンター	栄養	一般	赤坂 友里恵	Refeeding症候群高リスク患者のリン管理に課題が残ったNST介入の症例
彩の国東大宮メディカルセンター	薬剤	部長	矢吹 直寛	彩の国東大宮メディカルセンターにおける薬剤師の外来業務の医療安全・経済効果の検証
彩の国東大宮メディカルセンター	臨床検査	科長	中田 正人	生化学的検査I 包括検査項目数の削減への取り組み
彩の国東大宮メディカルセンター	リハビリ	係長	工藤 宏	パフォーマンスシート導入によるマネジメント指標の共有から活用に向けた実践報告
千葉愛友会記念病院	検査	一般	大石 真子	当院で実施した看護部向け採血業務のための研修会動画配信について
金沢文庫病院	事務	事務長代行	大山 徳郎	地域の介護施設との連携強化の取り組み
横浜相原病院	看護	看護部長	牛嶋 好美	精神科病院における虐待防止への取り組み～倫理的感受性を高めるには～
上尾中央第二病院	看護	一般	齋藤 亜湖	病棟の特性に合わせたピクトグラム活用の効果持ち込み肌着・オムツ・ミトン着用にて特化したピクトグラム作成
蓮田一心会病院	看護	一般	田中 茂子	外来で個性のある看護を目指して ～限られた時間の中で効果的な情報収集するために～
埼玉回生病院	リハビリ	一般	大嶋 翔	遷延性意識障害が回復し自宅退院可能となった1症例の報告【第2報】 一言語療法と多職種連携を行って
横浜鶴見リハビリテーション病院	地域医療連携	主任	藤村 領	回復期リハビリテーション病棟のスムーズな入院受け入れの為に判定会の取り組み
桶川腎クリニック	透析	一般	倉田 拓海	当院の洗浄剤変更による透析液清浄化の取り組み
(株)武蔵野社	事務	係長	江川 圭	医療費未収金削減対策と回収率向上に向けた取り組み
上尾中央医科グループ協議会	リハビリ	科長	山口 賢一郎	リハビリテーション部門における施設間連携を活用した質改善活動の取り組み
上尾中央医科グループ協議会	医師人事企画部	係長	杉山 真司	当グループにおける医師働き方改革へ向けての取り組み ー適正な労働時間の把握と今後の活用についてー
上尾中央医科グループ協議会	人事部	課長	堀越 聡一郎	医療グループに於ける事務総合職(医療マネジメント職)新卒採用の新たな取り組み報告

発表演題の紹介

ポスター発表39題

施設名	所属	役職	発表者氏名	演題名
上尾中央総合病院	看護	一般	久保田 晴美	ハイケアユニットにおける働きやすい環境づくり～私たちが退職を思い留まった理由～
上尾中央総合病院	栄養	一般	長澤 友季乃	副腎クリーゼ発症後、全身状態が悪化した患者へ頻回な栄養介入を行い、栄養状態が改善した症例
上尾中央総合病院	栄養	一般	小久保 里紗	こまめな栄養管理により、患者が切望するイベント達成に繋げることができた緩和ケアの一症例
八潮中央総合病院	放射線	一般	渡邊 楨哉	上肢CT撮影時の体位による患者負担軽減を目指して
八潮中央総合病院	診療情報	一般	宮澤 美紅	医師事務作業補助者の活用による退院時サマリー向上の取り組み
吉川中央総合病院	看護	一般	鳥羽 華乃子	ストーマ保有者の声を聞いて分かったこと～個別性に沿ったストーマセルフケア指導を目指して～
白岡中央総合病院	放射線	一般	秋山 一平	当院でのMRI室内への禁忌物持ち込み防止への取り組み
白岡中央総合病院	臨床工学	一般	高橋 舞	当院における生体情報モニタアラーム状況とMACT活動について
白岡中央総合病院	薬剤	係長	佐々木 順哉	Excelマクロ機能(VBA)を用いた薬剤師業務の効率化の取り組み
白岡中央総合病院	総務人事	主任	勝野 大樹	早期離職防止の為に院内ガイドブックの作成
柏厚生総合病院	放射線	一般	堀江 和輝	MR検査にて患者負担軽減を目指す～手関節専用コイルの使用経験～
柏厚生総合病院	放射線	主任	小幡 忠司	rapid resultによる診療放射線技師のCT撮影業務負担軽減の取り組みについて
津田沼中央総合病院	看護	主任	大瀧 百合子	地域における健康保持増進活動～多職種協働による誤嚥性肺炎予防の取り組み～
津田沼中央総合病院	検査	係長	松田 聡子	検査説明におけるデジタルコンテンツ活用の取り組み
津田沼中央総合病院	健康管理	主任	志水 将人	二次検査受診者数増加に向けた取り組み
浅草病院	栄養	主任	山崎 友里	当院の給食運営について～現状と未来に向けて～
浅草病院	事務	一般	市川 真衣	地域住民の方に向けての広報活動の取り組み
さがみりハビリテーション病院	栄養	一般	富永 咲季	便秘症・脂質異常症患者に対し水溶性食物繊維を使用した一例
船橋総合病院	放射線	一般	小峯 諒也	画像評価を用いた一般撮影技術向上への取り組み
船橋総合病院	栄養	参事	渡辺 正幸	給食管理と栄養管理の両立～ニュークックチル導入効果～
彩の国東大宮メディカルセンター	放射線	主任	和田 樹昂	肺血栓塞栓症患者の造影CT検査時に心肺停止をきたした2例
彩の国東大宮メディカルセンター	臨床工学	主任	矢作 麻結	手術室ME機器の安全管理と保守点検の確立～修理費用削減に向けた臨床工学技士からのアプローチ～
千葉愛友会記念病院	臨床工学	主任	今井 弘子	分娩監視装置の管理方法改善への取り組み～未来の子どもたちへ～
千葉愛友会記念病院	薬剤	主任	田中 雅宏	精神疾患のある乳がん患者に対する術前化学療法の影響評価とモニタリング
三郷中央総合病院	看護	一般	石原 菜	CAM-ICU陰性患者に対するインシデント対策の検討
横浜なみきりハビリテーション病院	リハビリ	主任	田丸 周平	当院におけるコロナ禍での求人活動の成果～リハビリテーション科の取り組み～
越谷誠和病院	栄養	一般	辻本 澄子	管理栄養士の業務改革～チャレンジ研修で得たものとは～
横浜相原病院	看護	参事	古口 尚美	「そうだ！目の前にあるあの寮をグループホームに替えてしまおう！！」
横浜相原病院	看護	一般	濱村 正	精神障がい者の支援に対する一考察
おひさま在宅クリニック	看護	室長	雨宮 栄子	一般病院で院内デイケアを試みて～認知症患者の行動の変化～
伊奈病院	看護	一般	横村 実花子	看護師の薬剤管理に対するインシデントとストレスとの関連性
伊奈病院	検査	係長	波多野 佳彦	PT時間測定における緩衝液による影響
伊奈病院	放射線	一般	土居 旺	当院における放射線防護衣の品質管理基準の見直し～保管及び使用方法の適正化に向けて～
メディカルトピア草加病院	看護	一般	小谷中 美沙子	婦人科術前減量指導方法の検討～効果的な指導を目指して～
埼玉回生病院	看護	主任	長谷川 有希	医療療養型病床におけるCOVID-19感染拡大防止への取り組み
埼玉回生病院	看護	一般	桑原 美生	実践報告認知症看護リンクナースの導入～アンケート調査からみる現状～
横浜鶴見リハビリテーション病院	薬剤	一般	渡邊 美耶子	リハビリテーション病院における認知症ケアサポートチームでの薬剤師の活動
横浜鶴見リハビリテーション病院	看護	一般	平山 琴子	入院中に妻が亡くなった患者への対応～真実を伝えるべきかを巡る葛藤～
西大宮腎クリニック	臨床工学	主任	小内 宗一郎	当院における災害用伝言ダイヤル(171)訓練状況の報告

全日本病院学会 in広島 発表者インタビュー



初めての発表 津田沼中央総合病院 野田 真裕美さん(社会福祉士)

□演発表

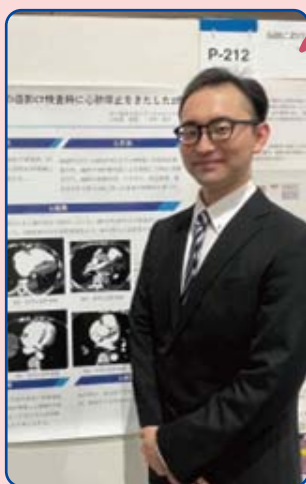
「地域連携会議の取り組みについての実践報告～病院から老健へ看取り目的で入所した事例共有を通して～」

Q1.発表を終えての感想

緊張しましたが、くり返し練習を行っていた成果もあり、無事に終わることができほっと一安心です。日々の実践や取り組みを研究・実践報告として発表すること、ひとつの形にすること、大変さはありませんでしたが、達成感を感じたのと同時に、これからの課題も考えることのできる機会となりました。

Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

初めての発表で、右も左もわからない状況でした。限られた時間のなかで、「何を伝えたいのか」を明確にし、「どのようにしたら伝わるのか」を聞き手をイメージしながら作成するのが難しかったです。



5回目の発表 彩の国東大宮メディカルセンター 主任 和田 樹昂さん(放射線技師)

ポスター発表

「肺血栓塞栓症患者の造影CT検査時に心肺停止をきたした2例」

Q1.発表を終えての感想

発表を通じて、自分の研究についてさらに深く理解することができたと思います。また、他職種の演者と交流することで、新しいマネジメントの視点や知見を得ることができました。これも全日病ならではの感想です。

Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

学会発表は、演者や参加者同士の交流をする絶好の機会です。他施設のAMGグループ職員との交流もすることができ、とても刺激的な時間を過ごすことができました。今後も、学会や研究会などを通じて、積極的に交流をしていきたいです。自分の研究をわかりやすく伝える難しさを痛感しました。今後は、よりわかりやすいプレゼンテーションをするために、プレゼン能力の向上を目指していきたいです。



初めての発表 白岡中央総合病院 主任 勝野 大樹さん(総務人事課)

ポスター発表

「早期離職防止の為に院内ガイドブックの作成」

Q1.発表を終えての感想

グループ外での学会参加が初めてだったので、右も左も分からない中での初発表でした。懇親会で中村会長から「自分がこれまでやってきたことを知っているのは自分なので、自信を持って発表してください」と背中を押していただき、堂々と発表することができました。発表にあたりご協力いただいた方々、ありがとうございました。

Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

院内の仕組みに対して自分自身の知識が乏しい点を理解できました。アンケート結果が発表に値するものか心配でしたが、院内でも好評をもらえて作成に着手して良かったです。ポスターのレイアウトや色味などをギリギリまで悩みましたが、いろいろな方からアドバイスを受けて、完成に至ることができました。



初めての発表 千葉愛友会記念病院 大石 真子さん(臨床検査技師)

□演発表

「当院で実施した看護部向け採血業務のための研修会動画配信について」

Q1.発表を終えての感想

終わってほっとしたというのが一番最初の感想です。緊張で思うようにならず、反省点も残るものとなりましたが、次に繋がる良い経験となりました。

Q2.準備段階で苦労した点、良かった点

学会発表を目的として始めた取り組みではなかったため、どのように発表したら良いかの検討に苦労しましたが、先輩方の力添えにより無事に発表することが出来ました。その中で、日常業務とはまた違ったスキルを学ぶことができ、とても良い機会となりました。

2024年度

ワークアウト(ファシリテーター)研修会

キックオフ 開催報告

2023年12月14日にAMGワークアウト(ファシリテーター)研修会のキックオフを実施しました。

本研修は、「AMGのワークアウトを推進する人財を継続的に育成すること」を目的に、2016年度より開催をしています。

ファシリテーター研修会の講師は、「屋根瓦方式」を取り入れて育成しています。屋根瓦方式とは、講師を務めた人が、次の講師を育てる側に回る、これを繰り返しながら知識や講義内容を継承していくことです。教える側と教えられる側が「共に学ぶこと」を目指しています。

キックオフ当日は、前回講師の4名と、前回、前々回の研修会より選抜された新任講師3名が協議会ビルへ集結しました。

キックオフの前半は、本研修会の発足当初に講師を行っていた久保田総局長からご挨拶いただき、講師陣の自己紹介、新任講師への委嘱状授与を行いました。後半は、研修会の講義内容について、前任講師から新任講師へ引継ぎを行いました。

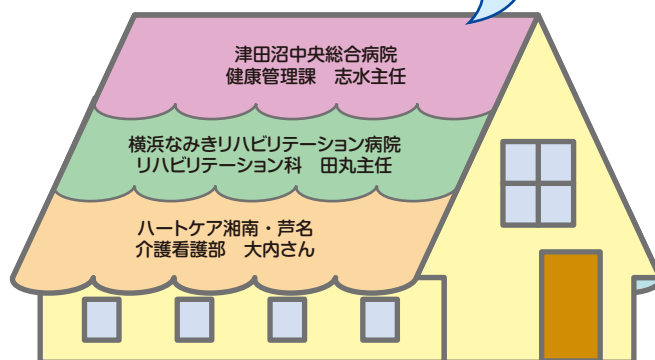
研修会本番に向けて、新任講師を中心に、前任講師と運営スタッフで準備を進めていきます。



▲新任講師(前列)と前任講師のみなさん

▲新任講師
津田沼志水主任、HC 湘南芦名大内さん、なみき田丸主任

講師は「屋根瓦方式」を取り入れて育成しています



AMGのワークアウトを推進する人財を継続的に育成する

- ① ワークアウトの基本と仕組みを学ぶ
- ② 問題解決の手法を身につける

2024年度AMGワークアウト(ファシリテーター)研修会
6月開催予定(オンラインZoomにて)

2023年度

AMG職員意識調査・職員やりがい度調査 実施します

実施概要

実施期間 2024年2月1日(木)～2月29日(木)

対象者 全職員
(パート医師・派遣スタッフ除く)実施方法 web方式
(パソコン・モバイル端末より接続可能)

AMGポータル

職員ID
パスワード

ログイン



<AMGポータルへアクセス>

<https://amgsys02.site:8024/portal/>

パソコン・タブレット・スマホ
いずれの端末からでも接続可能です。
(パソコンでの接続を推奨しております)

AMGポータルよりログインし、回答をお願いします。

今年度も、全職種・全職員を対象として、AMG職員意識調査・職員やりがい度調査を実施します。

AMG職員全体が、安心して働くことのできる環境整備と、永続的に質の高い医療と介護を提供するためには、職員一人ひとりの前向きな意識が大切です。

一人ひとりの「働きがい」や「働きやすさ」をもって働くことのできる環境の実現のために、意識調査の結果の要因分析や経年変化を課題とし、組織的に改善活動に取り組みます。

特徴と目的

AMG職員意識調査 ※全施設対象

AMGの組織傾向とAMGの意欲の根源を知ること
5つのカテゴリ-44設問から構成されています。
経営方針・病院施設運営・人事制度・職場の雰囲気・ご自身について、経年で比較や分析ができます。

職員やりがい度調査 ※病院・老健のみ対象

より質の高い医療の提供を目指して、組織運営や職場環境の課題を把握すること
11設問から構成されています。調査データは、病院機能評価機構へ流れ集計されます。ベンチマーク結果について、他病院老健と比較することができます。

特定非営利活動法人 日本医師事務作業補助者協会 第12回 全国学術集会在行われました!

人財開発室

2023年10月27日(土)に特定非営利活動法人 日本医師事務作業補助者協会第12回 全国学術集会在ハイブリッドにて行われました。今回AMGからは13演題の発表があり、内4演題が優秀演題賞を受賞しました!

～当日のプログラム～

- 学術集会長講演 「自分ごと化」～現場で必要とされる臨床支援士になるために～
- 教育講演 「あなたの大切な思いを『実現』する人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」
- 日本医師事務作業補助者協会 調査部会アンケート報告
- 招待講演 「笑いの現場から学ぶ最強のコミュニケーション[なんでやねん力]～唯一無二の臨床支援士を目指して～」
- 特別講演 「医療DX推進下における医師事務作業補助者に求められる知識・スキル」>久保田総局長が座長をされました!

シンポジウム

人財開発室 駒宮室長より

今回の学術集会では、「診療支援」「タスクシフト」「組織作り」などのカテゴリで多くの演題発表がありました。自施設の課題解決、組織運営に役立つ内容かと思えます。多くの方が参加すると同時に日々の業務の振り返り、新たな知見の習得、課題解決につながります。

AMG目標でもあるプレゼンスキルの向上の機会として、ぜひ!学術集会への演題登録にチャレンジしてみましょ!

久保田総局長より

今回もAMGより13演題と多くのエントリーをいただき、ありがとうございました。また、医師事務のみならず、経営幹部の皆さまにもご参加いただきました。

医師事務作業補助者体制加算の創設から15年が経過し、これまでの活動が評価され、診療報酬の点数増加にもつながっています。医師の働き方改革がスタートすることで、より医師事務作業補助者の存在価値、重要性が増しております。

日本医師事務作業補助者協会の学術集会是、それぞれの取り組み段階の発表があるため、各施設での参考となる事例があります。今後、タスクシフト・タスクシェアをますます促進するためにも重要な機会となっています。

これからも引き続き、よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人
日本医師事務作業補助者協会
第12回全国学術集会

臨床支援士のidentity確立

～「自分ごと化」による
主体的発展を目指して～

2023年10月28日(土) 10時～17時
開催形式 ハイブリッド形式
(現地開催およびWeb開催の併用)
会場 TKPガーデンシティPREMIUM心齋橋
オンデマンド配信 11月3日(金)～11月12日(日)

- ・演題募集期間 5月1日(月)～6月25日(日)
- ・参加登録期間 5月1日(月)～9月15日(金)

詳細: <http://gakujutsu.ishijimu.org>

協賛団体: 一般財団法人 日本医療秘書学会
後援団体: 一般社団法人 大阪府病院協会 一般社団法人 大阪府私立病院協会

会長 中村アツ子 大阪ろうさい病院
主催 特定非営利活動法人 日本医師事務作業補助者協会
JAMOA Japanese Association of Medical Office Assistants

発表演題一覧

優秀賞	施設名	演題名	筆頭演者
	上尾中央総合病院	整形外科の予診件数増加に向けた取り組み	宮田 一栄
	八潮中央総合病院	医師事務作業補助者による退院時サマリー代行の取り組み	田名部 憲
※	吉川中央総合病院	その症状認知症とちやいますよ!～もの忘れ外来業務効率化の取組み～	田本 志保
※	白岡中央総合病院	男性医師事務作業補助者の採用と新人教育体制見直しによる効果	高橋 まゆみ
	津田沼中央総合病院	円滑な外来診療を目指して	日馬 絢子
	船橋総合病院	質の高い書類作成を目指して	谷 登志美
※	彩の国東大宮メディカルセンター	PFM における入院前業務支援 ～ニーズに応える医師事務作業補助業務～	菅原 望千恵
	伊奈病院	整形外科術前評価補助業務における医師事務作業補助者の役割とその成果	大山 好子
		骨粗鬆症リエゾンチームにおける当課の役割と取り組み	加藤 恵理子
※	メディカルトピア草加病院	一般病院2 病院機能評価3rdG:Ver3.0【区分1】受審～見えてきた臨床支援士の役割～	竹内 奈央
	桜ヶ丘中央病院	電子カルテ導入にむけた業務支援	幸松 美奈子
		回復期リハビリ病棟の医師事務作業補助者の取り組み	小林 しのぶ
	上尾中央腎クリニック	当院における電子カルテ代入力成果報告	高津 智行

掲載例

【病院名】
【所属部署】
【名前】

発表者または
メンバーの写真

【演題名】

【抄録の要約】

【優秀演題賞受賞者コメント】

上尾中央総合病院
外来看護科
宮田 一栄



整形外科の予診件数増加に向けた取り組み

整形外科では2018年から初診患者を対象に定型的予診補助(予診)をDAが行っている。徐々に予診可能なDAは増員できたが、予診導入以降のフォローアップをしておらず、DAによって予診時間に差があると指摘があり、初診患者全員へ介入できていない現状が分かった。未介入分の問題を調査したところ、DAで改善が見込める部分が31%あり以下のように取り組んだ。

DA主導で行う聴取方法の見直し

予診にかかる制限時間の設定

外来全体でフォローする環境づくり

その結果31%から7%まで改善し、介入率は約60%から約80%まで上昇した。予診内容の評価はできておらず、今後はフォローアップ体制の構築を検討し改善が見込める部分に対して0%を目指す。

人財開発室

吉川中央総合病院
メディカルクラーク室
田本 志保・徳井 一恵・齊藤 友香



その症状認知症とちやいますよ！～もの忘れ外来業務効率化の取り組み～

2020年に脳神経外科ではもの忘れ外来を立ち上げ、当初は脳神経外科専属の医師事務作業補助者が陪席業務にあっていたが、受診患者増加に伴い業務が逼迫していた。

医療の質を担保したまま、入院までに必要なプロセスの簡素化と可視化できるように、入院前問診の作成、入院登録のセット化、検査オーダーのセット化、チェックリストの作成などを行った。

結果、効率化に向けたフロー作りができたことで診療においてもスマートな情報共有を図ることが可能となり、多職種との連携強化にも役立っている。業務を通して疾患の理解を深めることができ、認知症状のある患者に寄り添った体制を構築できたことは大変有意義な取り組みであったと考える。

協力体制を構築し、隙間のないフォローが可能となったことで外来業務効率化に繋がった。外来待ち時間が短縮され、今回の結果が大きく反映された。今後とも臨床支援の質の向上を目指しながら貢献していきたいと考える。

八潮中央総合病院
診療情報管理室
田名部 憲



医師事務作業補助者による退院時サマリー代行の取り組み

退院時サマリー完成率の100%達成を目的として取り組んだ。

代行指導について、医師によりじっくりと指導する時間もないことが課題としていたが、診療記録のスペシャリストである診療情報管理士による記載の心得や記載方法の指導を行うこととして、記載率が低い医師や電子カルテの操作が苦手な高齢の医師、非常勤医師が担当した患者を対象にサポートを開始した。

開始後、年平均93%であった完成率が99%に上昇し、単月では100%を達成することが出来た。医師より「自分が記載するサマリーより見やすくなった」、「サポートしてもらうことにより他の仕事が出来ようになった」等の評価を頂き、質の向上にも繋げることが出来た。

船橋総合病院
医療秘書課
谷 登志美



質の高い書類作成を目指して

当院では電子カルテ導入に伴い、業務を外来と病棟に分けた。病棟担当は書類の作成経験年数の浅いスタッフが多く不明点を各々で医師に確認していたため、医師からは同じことを何回も聞かれる等の不満の声。スタッフからは書き方についての情報共有が出来ず困っているとの声が上がった。取り組みとして①点検者を診療科毎に固定。②医師から添削された書類は、スタッフ間で情報共有しファイルにまとめる。③医師毎に既往歴の書き方の一覧を作成。④医師・スタッフによる勉強会の開催を行った。現在新しいスタッフが加わっているが情報を共有したことで書類作成はスムーズに行えており医師からの信頼も得ることが出来た。

白岡中央総合病院
メディカルクラーク課
高橋 まゆみ



男性医師事務作業補助者の採用と新人教育体制見直しによる効果

当課の人財不足解消のため職場環境の変化を求め2021年度初めて男性の新卒者を採用、教育体制の見直しを行いました。新人から専門的スキルと共にコミュニケーション能力や判断力などの社会的スキルを習得できるように計画し、管理職を見据えた人財育成を目指しました。業務チェックリストや新人日報などを活用し育成、問題点などを改善し翌2022年度新たな男性新卒者を採用、教育しました。その結果、社会的スキルを含めた総合的スキルが習得でき、習得期間が短縮しました。さらに男性医師事務の存在が当課の環境改善や医師の信頼度が向上したアンケート結果となり、男女共に活躍出来るメディカルクラーク課確立へ有効な結果となりました。

学会発表にご尽力頂いた沢山の方に感謝します。新たな取り組みで大変でしたが、新人だけでなくスタッフの成長も感じられました。今後でも人財育成を継続し当課の発展を目指します。

津田沼中央総合病院
メディカルサポート室
日馬 絢子



円滑な外来診療を目指して

当院の泌尿器科は2020年に常勤医師が入職し、新たな手術や検査等の治療を積極的に行うようになった。

常時1診で診療を行っているため、診療内容によっては約15～30分を要し円滑に外来診療が進まず患者からの苦情も散見された為、診療待ち時間の検証・分析を行い診療体制改善に取り組んだ。

分析データを基に医師・外来看護師とともに処置・検査・手術面談の予約枠設置を行い、対象患者を各予約枠へ誘導。通常診察と分けることで、予約枠の患者をほぼ遅延無く予定時刻通りに案内できるようになった。

前年比で、総診察患者数は増加しても平均診療延長時間の短縮に成功し、診療待ち時間に関する不満解消・診療効率化を図ることができた。

上尾中央腎クリニック
事務部
高津 智行



当院における電子カルテ代行入力成果報告

当院は90名ほどの患者さんが通院しており医師1名で透析医療をしています。近年患者数の増加やそれに伴う書類作成等医師の業務が増えているため医師事務作業補助者を配置しタスクシフトを推進しています。今回、医師事務作業補助者による特定疾患療養管理料のカルテ代行入力を始めました。食事・生活・運動・服薬などの指導項目に番号を振り回診時に一覧表から選んで指導し回診後、選択した番号を医師事務作業補助者が代行入力をことにより医師の電子カルテ入力時間が短縮しました。そして短縮した時間は患者さんの指導に回すことにより診療がさらに充実しました。

彩の国東大宮メディカルセンター
医療クラーク課
菅原 望千恵



PFMにおける入院前業務支援 ～ニーズに応える医師事務作業補助業務～

当院では2020年9月より総合患者支援センター(PFM)を設置し多職種による入退院支援を開始した。手術症例に対し麻酔科受診、口腔外科受診、薬剤指導、栄養指導、呼吸訓練、看護師面談を全症例に実施することとなった。予約、患者説明のタスクが増加したため、多職種指導が円滑に行えるよう医師事務がスケジュール調整、予約業務のフロー構築を行った。また、術前指示の不備が多い診療科に対し業務支援を開始。同意書・入院指示の不備チェックや不足検査の代行入力を行った。結果、入院前指導を円滑に行うことができ、タスクシフトにより医師・看護師の負担が軽減された。医師事務が安心安全な医療体制の提供に貢献することができた。

今回PFMチームに参画し、医師の支援だけでなく、看護師の負担軽減、患者の安心安全な入院医療に貢献することができました。今後も当院の医療の質向上に貢献できるような業務支援を行ってまいります。

メディカルトピア草加病院
臨床支援課
竹内 奈央



一般病院2 病院機能評価3rdG:Ver3.0【区分1】受審
～見えてきた臨床支援士の役割～

当院は日本医療機能評価機構の最新改定後、最初の受審病院である。臨床支援士が機能評価にどう関わったか、また受審を通して、当課の業務の重要性を再認識できたため発表に至った。特にカルテレビューで評価される「診療記録の適切性」は、外来初診、入院から退院までの診療録を当課で監査し、不備不足等を医師へ報告し修正をおこなったことで、臨床支援士が質的点検に携われるスキルをもちあわていると実証できた。また、問診表等や通常診察での診療録の代行入力を通常業務でおこなっている当課の支援は「質的に十分である」と認定された。今回の受審で臨床支援士の業務は第三者機構からも多面評価として大きな成果を残すことができた。

今回の受審は、当課の通常業務そのものが第三者機構から評価されたことに意味があったと思う。「臨床支援士」という職種が、医療従事者だけでなく広く知ってもらえるよう業務に取り組んでいきたい。

伊奈病院
メディカルサポート課
加藤 恵理子・戸井田 智子



骨粗鬆症リエゾンチームにおける当課の役割と取り組み

当院では骨粗鬆症リエゾンサービス委員会を2014年に発足以来、「骨折リエゾンサービスクリニカルスタンダード」を用いて活動を行っています。2022年診療報酬改正において、二次性骨折予防継続管理料および大腿骨近位部骨折患者に対し、緊急修復固定加算・緊急挿入加算が算定可能とされました。これらの算定を可能とするには、当課だけでは対応困難な局面があり、多職種での取り組みを提案したことでスムーズな連携を図ることができました。それにより、緊急修復固定加算・緊急挿入加算の算定が可能となりました。当院では医師事務作業補助者が対象患者の抽出を行うことで活動の基盤を担っていることを改めて実感しました。

伊奈病院
メディカルサポート課
大山 好子



整形外科術前評価補助業務における医師事務作業補助者の役割とその成果

整形外科において術前全身麻酔評価や入院指示の入力漏れが多発し準備を行う看護師の業務負担となっていたため、医師事務作業補助者が介入を開始。まず入院・手術に必要な文書や指示の中で漏れが多発している6項目を抽出。業務担当者を選定、医師への依頼方法や管理方法を決定し業務の標準化を図りました。次に医師へ依頼前に検査異常値を把握し依頼時に医師へ周知することで他科へのコンサルトが円滑に進むようになりました。さらに外来診療支援で文書や指示の代行入力を行い介入項目を9項目まで拡大することに成功。多職種と連携を図りながら問題解決に取り組み、医師の負担軽減、業務の質改善、医療の質向上に貢献することができました。

桜ヶ丘中央病院
診療部事務室
幸松 美奈子



電子カルテ導入にむけた業務支援

当院では電子カルテが導入され、紙カルテ運用で行ってきた処方の変更や検査オーダー等がすぐに対応出来ず、診療が滞ることが問題となった。また診療に携わるスタッフからITに不慣れ医師には医師事務が介入してほしいと声があがった。プロジェクトを通して医師と他職種の意見を聞きながら、医師と共に紙カルテから電子カルテの運用や移行方法を検討し、操作マニュアルを作成、操作レクチャーを行いITに不慣れな医師の外来診療をスムーズに行えるよう業務支援を行った。導入前準備、導入後の業務支援も行い医師事務が介入した事で診療がスムーズに行われ紙カルテ運用時よりカルテ記載や処方の誤字、問合せ件数等が減り医師の負担軽減ができた。

桜ヶ丘中央病院
診療部事務室
小林 しのぶ

回復期リハビリ病棟の医師事務作業補助者の取り組み

電子カルテ導入時、医師から診療やカンファレンスなどに時間が費やせない書類が多いとの声を度々聞くようになり、現状確認したところ回りハ病棟は取り扱う書類が多く、書類を引き渡すのに時間がかかっていることがわかった。医師事務を回りハ病棟に専属配置し、書類作成や代行入力を担う事とした。リハビリや地域連携課と情報を共有し、退院後の方向性や必要となる社会サービスの情報を入手し、必要となる書類作成の取りかかりを早くするようにした。書類作成の際に必要な一般的な知識の他に、回りハ病棟で必要となる専門的な知識を身に付ける様にした。結果、医師が患者様と関わる時間が増加し、書類の渡し遅れが無くなった。



第34回 全国介護老人保健施設大会宮城

2023年11月21日(火)～22日(水)に第34回全国介護老人保健施設大会宮城が仙台市で開催されました。本大会は、日本全国の約2900の介護老人保健施設が加入する(加入率95%)公益社団法人「全国老人保健施設協会」が年に1度開催する研修の場となっています。

今回のテーマは「地域共生社会の復権と老健 ～デジタル化時代の絆～」でした。デジタル化社会という新しい時代との共存も、人と人のつながり「絆」のあり方を問う新しい地域共生社会を考える良い機会になったのではないのでしょうか。

AMGからは、7施設が参加し、8演題の学術発表をしました。大会2日目のトークショーには、みやぎ絆大使の「サンドウィッチマン」が出演し、参加者の笑いを誘っていました。

来年度の大会は、2024年11月14日(木)～15日(金)に岐阜県で開催されます。皆様、ぜひご参加ください!



第34回全国介護老人保健施設大会宮城 発表演題の紹介

施設名	演者氏名	職種	役職	演題名
NP流山	村上 潤次	介護福祉士	主任	安全部会を継続するための体制づくり
HC東大宮	志保田 知佳	管理栄養士	一般	早食い=小分け対応からの脱却 ～多職種で考える食事環境設定～
HC左近山	星野 香織	介護福祉士	一般	自分に合った歯磨きを ～適切な口腔ケア～
HC横浜	泉元 龍也	介護福祉士	一般	ユマニチュードケア実践によるBPSDの解消
エルサ上尾	野本 晋平	介護福祉士	主任	被介護者における心の満足度の数値的評価方法の開発
エルサ上尾	高谷 朋子	介護福祉士	一般	利用者の満足度向上に向けた他職種での取り組み
あおばの里	丸岡 弘治	薬剤師	一般	老健内外での薬剤情報共有と多職種連携のあり方の検討
RP横浜	石津 克也	介護福祉士	一般	介助の「速さ」「強さ」の変化による「負担」への影響

全老健大会を終えて

エルサ上尾

野本 晋平



1 発表を終えての感想

発表前日まで発表内容の検討し大変であったが、それがより内容の理解につながり自信となり、当日は緊張せずに発表できました。継続案件の課題なので、改善してより良いものにしていきたい。

2 準備段階で良かった点・大変だった点

良かった点は入所フロア全体の発表ということで、一つ事に丸となって取り組めたこと。改善しなければいけない事案等、まだ発展途中であるが利用者様により幸せに施設生活を過ごすことが出来るように取り組んでいく。

大変だった点は、研究内容、調査方法が難しかったので職員の理解やフォローが大変だった。またフロア全体の取り組みのため多職種とのスケジュール調整や課題がでた場合のすぐに集まらないことなど大変だった。



全老健大会を終えて

ふじなみデイサービスセンター

高谷 朋子



1 発表を終えての感想

利用者お一人お一人と向き合い、抱えている不安や悩み、思いをくみ取ること。

その思いに対し多職種が一丸となって多職種が一丸となって取り組むことが、明日への一歩につながると実感しました。

2 準備段階で良かった点・大変だった点

発表に向け、日中の業務の合間を縫っての資料作りが大変でしたが、スタッフが協力して時間を作ってくれたり、みんながサポートしてくれました。発表はとても緊張しましたが、貴重な経験をさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

奨励賞受賞

ハートケア左近山

介護福祉士 一般

介護福祉士 一般

船山 陽子

中林 未央

HC左近山が前回大会(兵庫)の奨励賞を受賞しました



+ 2023年度外国人技能実習生交流会

2023年10月26日と11月7日、AMG学習館で外国人技能実習生交流会が開催され、2回合わせて118名の技能実習生が参加しました。今年度は久しぶりの集合型で、直接顔を合わせての交流会ができ、大変盛り上がりました。

技能実習生代表から「技能実習の3年間と今後」、「日本で介護の仕事をしてみて」の素晴らしいスピーチがありました。グループディスカッションでは、日本での生活について不安や悩み、病院や施設での仕事の現状、今後のキャリアについてなどを日本語で話し合い、情報共有しました。最後にはベトナム語OKのフリートークで技能実習生同士の仲間づくりができ、笑顔のあふれる交流会となりました。

ハートケア東大宮 介護係長 檜村 真紀江

～技能実習生代表者スピーチ(一部抜粋)～

技能実習の3年間と今後

桜ヶ丘中央病院 ドアン・ティ・タン

今日はお忙しい中、交流会を行って頂きありがとうございます。皆さんに会えてとても嬉しいです。

技能実習は楽しいこともあり、辛いこともあった3年間でした。ただ、その日々は自分にとって大切な日々でした。おかげ様で無事にもうすぐ3年の実習を終えることができます。3年間、本当にお世話になりました。AMGグループで働くことができて良かったと思います。

最初の頃は、仕事はもちろん、日本のこともあまり分からなくて皆さんに多くのご迷惑をおかけしました。でも皆さんがいつも親切に指導して下さったおかげで成長することができました。3年間の技能実習生が終わり、ベトナムに戻り看護師として働く人、日本に関係する仕事をする人もいます。私は特定技能として日本に残ることにしました。私の目標は日本語能力試験N1の合格と介護福祉士の資格を取ることです。どのような道を選んだとしても、本当に努力した分だけ成功が待っていると思います。頑張りたいと思います。



日本で介護の仕事をしてみて

一心館 デイン・ティ・ホアイ・トゥオン

私は日本に来て1年が過ぎました。ベトナムでは病院の看護師をしていましたが、日本の介護士のレベルが高いことから日本で介護の勉強をしようと思いました。そして勉強を進めると思ったことは日本語が難しいことです。ひらがな・カタカナ・漢字があり、漢字は一つの字で二通りの読み方があり、勉強をしていて頭が痛くなるくらい大変でした。

一心館での仕事は高齢者のケアをしています。入所している方はゆっくりと笑顔で話してくれて、少しずつ不安な気持ちがなくなり会話ができるようになっていきます。祖父に似た入所者を見たときは、ベトナムに帰りたいなぁと思い寂しくなることもあります。そんな気持ちを日本にいる友人や職場の指導者の方が支えてくれて頑張っています。日本は生活がしやすく、慣れて遠くまで電車で出かけられるようにもなりました。3年経っても、日本で仕事を続けていきたいと思っています。



2023.10.26



2023.11.7



2024年度 キャリアサポートセンター 研修一覧

Online
オンライン
研修※

◆ 看護師対象

日本看護協会認定

※感染管理認定看護師教育課程のみ対面研修あり

研修名	日程および期間	定員	受講料(税込)	申込期間	選考通知
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	5月10日(金)～8月17日(土) 原則 週2日/金・土曜	100名	150,000円	2月1日(木)～2月29日(木)	4月中旬
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	(2025年) 8月30日(金)～2月8日(土) 原則 週2日/金・土曜	50名	210,000円	5月1日(水)～5月31日(金)	7月中旬
感染管理認定看護師教育課程 (特定行為研修を組み込んでいる:B課程)	(2025年) 4月11日(木)～3月21日(金)	15名	1,380,000円 (入学金込み)	(2023年) 12月1日(金)～12月26日(火)	2月上旬

厚生労働省許可

看護学生実習指導者講習会	6月4日(火)～11月12日(火) 原則 週2日/火・水曜	100名	98,000円	3月1日(金)～3月31日(日)	4月下旬
--------------	----------------------------------	------	---------	------------------	------

◆ 介護福祉士対象

厚生労働省委託

介護福祉士実習指導者講習会	(2025年) 2月19日(水)～3月19日(水) 原則 週1日 5日程度	40名	27,000円	11月1日(金)～11月30日(土)	12月中旬
---------------	---------------------------------------------	-----	---------	--------------------	-------

◆ 医療職全般対象

診療報酬加算対象

厚生労働省「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」 医療安全管理者養成研修	4月5日(金)～4月26日(金) 原則 週2日 7日程度	50名	64,000円	1月4日(木)～1月31日(水) ※定員になり次第締切
--------------------------------------------------------	---------------------------------	-----	---------	--------------------------------

その他

看護管理者のための研修	12月頃予定 半日	100名	3,000円	詳細はホームページをご確認ください
看護・介護実習指導者/ 教育に携わる方のための研修	9月頃予定 半日	100名	3,000円	詳細はホームページをご確認ください

研修日程は変更する場合がありますので、必ずホームページでご確認ください。

AMG Career Support Center

一般社団法人 上尾中央医科グループ協議会
キャリアサポートセンター【所在地】〒362-0036
埼玉県上尾市宮本町 10-29
AMG 学習館 3 階【お問い合わせ】上尾中央医科グループ協議会 看護本部
(平日) 8:30～17:30 (土曜) 9:00～12:00

TEL 048-771-7765 Mail csc@amg.or.jp

URL https://amg.or.jp/career_support/



「厚生労働大臣賞 優良特定給食施設」受賞

2023年度全国栄養改善大会において吉川中央総合病院が「厚生労働大臣賞 優良特定給食施設」を受賞しました。

当院は2013年の電子カルテ導入や厨房移転などを契機に栄養管理や給食管理の改善を行ってきました。長年にわたる円滑な給食管理・栄養改善効果・患者様中心の食配慮等をあわせて評価していただきました。今回の受賞にあたりご協力いただいた当院職員と委託給食会社エム・ティー・フードに感謝いたします。

食材料費高騰など非常に厳しい給食運営状況ではありますが、患者様個々の治療にあわせ、安全で美味しい食事提供を心がけ、食を通じた退院支援を行えるよう、日々努めていきます。

吉川中央総合病院 栄養科 矢口 千恵



「神奈川県病院学会 優秀演題賞」受賞!!

2023.10.18ホテルメルパルク横浜において開催されました、第42回神奈川県病院学会にてさがみリハビリテーション病院栄養科富永咲季さんの「便秘症・高脂血症患者に対し水溶食物繊維を使用した一例」をポスター発表させていただき、優秀演題賞を受賞しました。

便秘に悩む高齢女性に対し、食物繊維を食事と一緒に摂取していただき、便通の改善と、HDL-コレステロール値が改善した症例発表でした。

リハビリ病院ですと、体重維持増加、摂取量などに目が行きがちですが、便秘症も入院患者さまに多い悩みの一つです。リハビリに影響を及ぼすことを少しでも排除して、患者さまの望む方向の退院に向け、寄り添いながら日々がんばっていきます。

さがみリハビリテーション病院 栄養科 田村 亜希子



認定理学療法士って何？

日本理学療法士協会が定める認定理学療法士制度は、より高い専門性を兼ね備えることを目的とした制度です。臨床実践分野において秀でている理学療法士を育成するため、認定看護師教育を模倣した仕組みです。いわば臨床実践家としてのモデルであり、学問を実践に結びつける役割、施設内は勿論、地域社会の中でも貢献する役割を担うことが期待されています。

認定分野は脳卒中/運動器/スポーツ/地域理学療法/介護予防/管理・運営/学校教育など22分野あります。

認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関になろう！

登録理学療法士が認定理学療法士になるためには、以下3つが申請要件となります。

- ① 指定研修カリキュラム受講
- ② 臨床認定カリキュラム受講
- ③ 日本理学療法学会学術研修大会参加

このうち、②臨床認定カリキュラムを提供する教育機関は、医療機関、養成校など多様な組織が全国から公募されています。

2022年、AMGリハビリテーション部門として、脳卒中認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関になるため、日本理学療法士協会に申請、審査を受け2023年2月に認可を受けました。

2024年度には新たに運動器認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関として申請済みです。



カリキュラムの特徴

- 特徴1** 講義担当者は全てAMGの脳卒中認定理学療法士が務めています！
- 特徴2** 学習者の都合で学べるオンデマンド講義を主体としています！
- 特徴3** 上尾中央医療専門学校にて1日間の対面講義(実技あり)を実施。顔が見える関係づくりも！

オンデマンド講義

2カ月間、自分のペースで!!



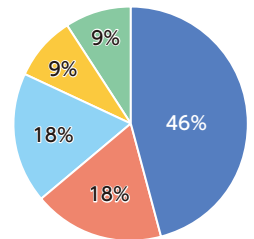
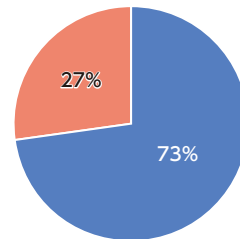
対面講義

4コマを1日間に集約!!



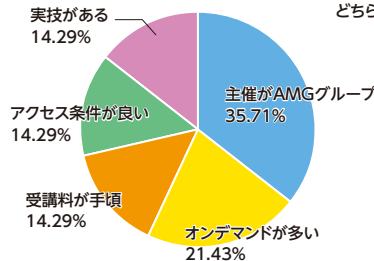
受講者データ

AMG外から受講者もあり、一緒に地域貢献できる仲間づくりにも寄与しています。

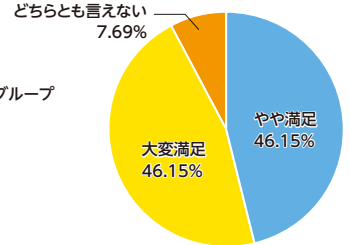


受講者アンケートより

本コースを選んだ理由は何ですか？



コース全体の満足度はいかがですか？



2024年度予定

▶▶ 継続 脳卒中認定理学療法士臨床認定カリキュラム2024

2024年5月より募集開始 対象は登録理学療法士です。

▶▶ 新規 運動器認定理学療法士臨床認定カリキュラム2024(申請済み認可待ち)

2024年7月より募集開始予定 対象は登録理学療法士です。

臨床工学部リフレッシュ研修会2023実施報告

臨床工学部リフレッシュ研修会2023は、2022、2023年度入職者のダブル開催としました。但し、同時開催というわけではなく、それぞれの開催を別日に設定し、7月13日と9月28日と2度催しました。2回の開催という事もあり、各施設にはスタッフ不足等の負担をかけましたが、参加された方々にとって多くの初体験があり、みんなで楽しみながら頭を悩ませた結果、リフレッシュになったかと思えます。

研修目的

他施設の同期メンバーとの交流、仕事に関する不安や悩みの共有し、心身のリフレッシュを図る



「サンアメニティ 北本キャンプフィールド」にて開催



課題

全部で5つの課題は、ひとり一人が個性を発揮し、コミュニケーションを重視できるように、あえて医療とは関係の無い課題を設定しました。班の中で各課題の担当を決め、担当者と班員が協力し、他の班と競う事でチームワークの大切さを学ぶことができました。



朝は緊張していた様子でしたが、課題をクリアする中で、打ち解けていきました。

プログラム

- ① 開会式
- ② ルール説明
- ③ 第1課題 アイスブレイク「ピカソは誰だ?」
- ④ 第2~4課題 各担当のクイズ
- ⑤ 第5課題 火付け競争 「キャンプ王に俺はなる」
- ⑥ 料理 食事 片付け
- ⑦ 歓談 アンケート
- ⑧ 閉会式



すべての班の料理を青木部長に試食していただきました。



猛暑の中での開催という事もあり、各自で熱中症対策をしてもらいました。



第5課題では、料理を作る為に、火起こしをノーヒントで頑張ってもらいました。

アンケート結果

実施後のアンケートでは、「もう一度やりたい」「すごく楽しかった」「勉強になった」「みんなと話せる時間がもてた」など多くの意見をいただきました。



ソーシャルワーカー 大学授業報告

社会福祉専攻の3年生を対象に、ソーシャルワーカー(以下SW)が、都内の大学で授業を実施。

講師は、杉山課長(CC習志野)、原島主任(吉川中央総合病院)、西尾SW(三郷中央総合病院)、橋本課長(SW部/船橋総合病院)。

専門職としてのSW活動、SWを目指した理由、働きがい等の説明や、症例検討会を実施。

共感を誘う微笑ましいエピソード、具体的な成長過程や見守る上司の温かさ、東北大震災でのボランティア活動からSWを志した感動の実話、現場で起こる難問珍問症例検討会等に、大きな拍手が寄せられました。

2024年には、同大学の2年生、1年生対象授業実施予定です。

この他、2つの大学で授業実施も予定しています。私達SW部は、今後も各大学と協力し、未来のSW育成、サポートに努めます。



医療・介護の歴史とソーシャルワーカー研修 開催報告

10月27日、専門シリーズ研修①「医療・介護の歴史とSW」を開催。講師は日本医療社会福祉協会(現、日本医療ソーシャルワーカー協会)の元会長で、現在はWITH医療福祉実践研究所にて、後進の育成に活躍されている佐原まち子さんに依頼し、日本の医療・介護の歴史、その政策の変遷、先人のSWの活動についてご講義頂きました。「温故知新」という言葉の通り、これからの時代に、私たちSWがどのようにあるべきかを考える機会になりました。



子育て世代ソーシャルワーカー研修交流会 開催報告

11月21日、サポートシリーズ研修②「子育て世代ソーシャルワーカー研修交流会」を開催。オープニングスピーチは、桜ヶ丘中央病院 地域連携課の南係長より、「子育て・就労両立支援」をテーマに、ご自身の子育てのエピソードを交えて、お話し頂きました。グループディスカッションでは、参加者の近況や子育てと仕事の両立での不安や困りごと、子育てをしながら働き続ける工夫や働きやすさについて考え、交流できる場として、SWの活気に繋がる研修交流会となりました。



AMGオープンカンパニー開催報告

数年ぶりの対面オープンカンパニーが人事部とSW部主催で池袋サンシャインシティにて開催。

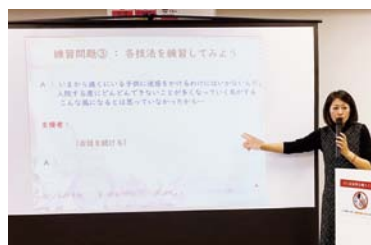
2025卒業予定の社会福祉士を目指す学生が来場し、4つの世界(急性期・回復期・慢性期・介護老人保健施設)を体験。同年代の先輩が「君たちはどう生きるのか」と問いかけるような熱い体験談、症例検討会を実施。

未来のAMG SW誕生を目指し、次回は12月27日、1月18日に開催予定です。



コミュニケーション、面接技術研修 開催報告

12月15日、専門シリーズ研修②「コミュニケーション、面接技術」を開催。緩和ケア領域を中心にソーシャルワークや心理臨床、教育等のご経験豊かな福地智巴さん(静岡県立静岡がんセンター/マギーズ東京)を講師に迎え、クライアント支援の基礎となるコミュニケーションスキルを中心に、演習を交えながらご講演頂きました。新人からベテランまで幅広い経験年数のSWが参加。集合型研修だからこそ、より実践に近い演習を経験でき、充実した研修となりました。



埼玉上尾メディックス×上尾市 連携協定を締結

この度、上尾市と連携協定を締結し、上尾市のスポーツを中心とした事業に対し、より一層の協力体制を敷いて参ります。

1月14日(日)に開催されました埼玉上尾メディックスホームゲームにて、上尾市・畠山稔市長と上尾中央医科グループ協議会・中村康彦会長による連携協定調印式を行いました。また、大野元裕埼玉県知事が後見人として出席しました。



V.LEAGUE DIVISION1 熱戦展開中!

2023-24 V.LEAGUE DIVISION1 V・ファイナルステージ進出をかけた後半戦へ!

10月21日(土)に佐賀県・SAGAアリーナで開幕をした2023-24 V.LEAGUEも、いよいよ後半戦へ突入しました。

埼玉上尾メディックスは開幕から優勝を争う強豪2チームとの対戦になり、2連敗と苦しいスタートから、全てストレート勝利で7連勝を達成し、前半戦を8勝3敗の4位で折り返しました。

皇后杯を挟んで1月6日(土)、7日(日)には富山県黒部市でリーグ戦を再開しましたが、1月1日に発生した令和6年能登半島地震の影響もあり、開催も危ぶまれ、選手たち自身も不安のある中での開催ではありましたが、地元の方々のご協力のおかげで無事に大会を終えることが出来ました。皆さまのご協力を心よりお礼申し上げます。

1月13日(土)、14日(日)には埼玉県上尾市・埼玉県立武道館にて、ホームゲームが開催され、2日間で約3,000人以上の皆さまにご来場いただきました。

V・レギュラーラウンド

佐賀県佐賀大会@佐賀アリーナ

10月21日(土) ●埼玉上尾 1-3 ○久光
10月22日(日) ●埼玉上尾 0-3 ○JT

石川県輪島大会@一本松総合運動公園体育館サンアリーナ

10月28日(土) ○埼玉上尾 3-0 ●プレステージ
10月29日(日) ○埼玉上尾 3-0 ●PFU

秋田県秋田大会@CNAアリーナ★あきた

11月4日(土) ○埼玉上尾 3-0 ●KUROBE
11月5日(日) ○埼玉上尾 3-0 ●日立Astemo

東京都大田大会@大田区総合体育館

11月18日(土) ○埼玉上尾 3-0 ●岡山
11月19日(日) ○埼玉上尾 3-0 ●東レ

北海道札幌大会@北ガスアリーナ札幌46

11月25日(土) ○埼玉上尾 3-0 ●デンソー

三重県四日市市@四日市市総合体育館

12月2日(土) ●埼玉上尾 1-3 ○NEC
12月3日(日) ○埼玉上尾 3-1 ●トヨタ車体

富山県黒部市@黒部市総合体育センター

1月6日(土) ○埼玉上尾 3-1 ●KUROBE
1月7日(日) ●埼玉上尾 1-3 ○JT

富山県黒部市@黒部市総合体育センター

1月6日(土) ○埼玉上尾 3-1 ●KUROBE
1月7日(日) ●埼玉上尾 1-3 ○JT

埼玉県上尾市@埼玉県立武道館

1月13日(土) ○埼玉上尾 3-0 ●東レ
1月14日(日) ○埼玉上尾 3-0 ●PFU



10月21日(土)開幕戦 vs久光スプリングス



11月4日(土)対KUROBE戦にてVリーグ通算230試合出場達成した青柳京古選手(写真左)



11月19日(日)対東レ戦にてVリーグ通算300試合出場を達成した岩崎こよみ選手



11勝4敗でV・ファイナルステージ進出圏内の第4位につける埼玉上尾メディックス(1月14日終了時点)

埼玉上尾メディックス

令和5年度 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 12月9日(土) 女子2回戦 vs ヴィクトリーナ姫路

12月9日(土) ● 埼玉上尾メディックス 0-3 ○ ヴィクトリーナ姫路 最終結果 2回戦敗退



アイダ設計プレゼンツ ホームゲーム埼玉県上尾大会ハイライト

1月13日(土)



上尾市・畠山稔市長、岩手県陸前高田市・佐々木拓市長によるダブル始球式



松山高校応援団部、吹奏楽部によるセット間パフォーマンス



1月14日(日)



上尾市、埼玉上尾メディックス連携協定調印式



大野元裕埼玉県知事による始球式



上尾高校書道部によるパフォーマンス



上尾高校チアダンス部によるパフォーマンス

両日開催



大宮ビューティー&ブライダル専門学校によるビューティーブース



三幸学園大宮こども校による託児スペース



令和6年度能登半島地震募金活動
キラリ☆あげおPR大使
フレッシュあげおのみなさんと内瀬戸真実さん



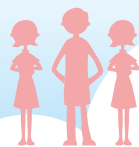
公募による上尾市内の小学生対象のキッズエスコート



たくさんの応援ありがとうございました！ 次回のホームゲームは2月3日(土)、4日(日)に埼玉県立武道館で開催されます。たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております。

上尾中央医科グループ

医療の質向上委員会



AMQI

The AMG Committee of
Medical Quality Improvement

お問い合わせ先 | AMQI事務局 (上尾中央総合病院 組織管理課) e-mail ▶▶ omr@ach.or.jp

連載 第62回

看護師特定行為修了者の活用と医療の質

看護師特定行為(以下、特定行為)は、看護師が手順書により行い、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる38行為です。特定行為は、医師が行う医行為の一部を看護師にタスクシフトすることで、医師の負担軽減に繋がります。それ以上に、これまで医師を待たなければできなかった医行為を、看護師特定行為研修修了者(以下、特定看護師)が行うことで、医行為が遅れることなく、患者のタイミングに合わせて行えることが、最大のメリットだと思います。

例えば、胃ろうカテーテルの交換を行うために、昼の経管栄養の投与を延食して医師を待っていたが、医師がカテーテルの交換を行えたのが、夕食直前になってしまい、昼分の経管栄養が投与できなかった。といった経験はないでしょうか?その結果、患者さんは1日に必要な栄養が、摂取できなくなってしまいます。これを特定看護師が、医師の包括指示で行うことで、患者さんへの経管栄養の投与時間に合わせて、カテーテルを交換できます。

また、特定行為研修では、医行為を安全に実施するために、臨床推論やフィジカルアセスメント等学び、高い臨床判断能力を習得します。そのような看護師が身近にいて、共に患者さんのアセスメントを行うことで、

他の看護師の臨床判断能力も高まり、患者さんの病状の変化に早期に気付くことが期待できます。このように、特定看護師を活用していくことは、医療や看護の質の向上に繋がるものであると考えています。

特定行為研修を終了しても、実践する場がないと、患者さんをアセスメントする知識や、行為に必要な手技が徐々に衰退してしまいます。特定看護師一人ひとりが実践できる場を広げて、習得した知識や技術をブラッシュアップしながら活躍できるように、病院や施設全体で支援してあげる事が大切だと思います。



AMQI 看護担当 小松崎 香

